

狭山市の子育て支援事業

ひとりでも抱え込まないで、みんなまで子育てがしまじよう

急速な少子高齢化や核家族化が進む中、女性の社会進出や生活様式が多様化し、家庭や地域での子育て機能が低下するなど、子どもを取り巻く環境が大きく変わりました。今、行政にはこれらの変化に総合的に対応し、子育てに対する不安の解消や要望に的確に伝えることが求められています。

市では昨年10月、小学校就学前の乳幼児に関することを総合的に検討するため、子育て支援対策プロジェクトチームを設置しました。そして当面の方針として「家庭で親が安心して子育てができること」「子どもを持つ親が安心して働くための支援」「親子が安心して過ごせる広場や遊び場の確保」「地域で活動している民間の子育て支援団体の活動環境の支援を4つの取り組みへき課題として整理しました。

今月は、この課題に基づいて今年度実施する主な事業をお知らせします。



国・県・市のこれまでの取り組み

●国・県の計画

国では平成6年に少子化対策として、今後の子育て支援のための施策の基本的方向について「エンゼルプラン」を策定して子育て支援策を推進することとしました。その施策の一つとして、当面の緊急保育対策などを推進するための基本的な考え方をまとめた「緊急保育対策等5か年事業」が策定されました。

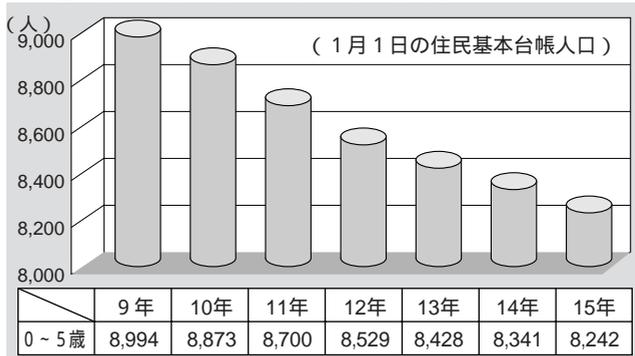
さらに11年には具体的実施計

画として「新エンゼルプラン」

を、14年には子育て支援策をさらにワンステップ進める「少子化対策プラスワン」を策定しました。この計画では、子育てと仕事の両立を目指して保育サービスの充実を進めてきたこれまでの取り組みに加え、専業主婦家庭を含むすべての子育て家庭を支援することが最大の柱となっています。

一方、県では平成8年におお

急速に進む狭山市の少子化

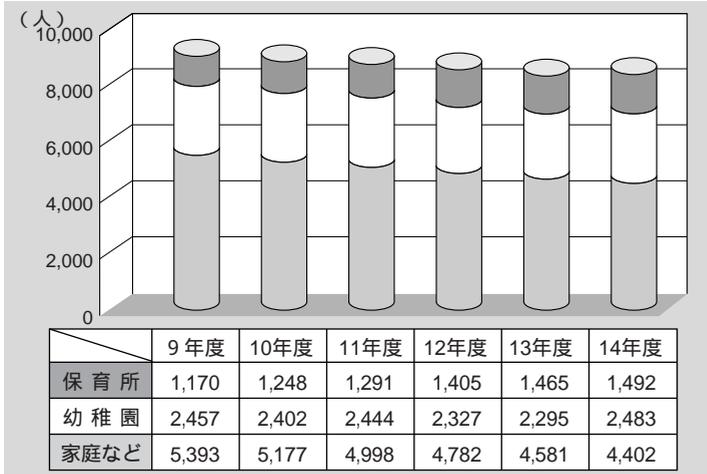


むね10年間を目的とした「埼玉県子育て支援総合計画(彩の国エンゼルプラン)」を策定し、12年には見直しを行い、後期5か年を対象とした「後期計画」を策定しました。

●市のエンゼルプラン

平成11年、狭山市児童育成計画「エンゼルプラン」を策定し、次の2つの施策を当面5か年の

狭山市の0～5歳児の保育状況(グラフ1)



狭山市の就学前児童数(0～5歳児)は、8千377人(平成14年5月1日現在)で、このうち保育所や幼稚園に通っている児童数は3千975人(47.45%)です。半数以上の4千402人

就学前の子どもの半数が家庭で

重点施策として設定しました。一つは、地域における子育て家庭の支援で、具体的には乳幼児情報センターの設置、ファミリー・サポート・センターの設置、ワイワイ広場の充実を図り

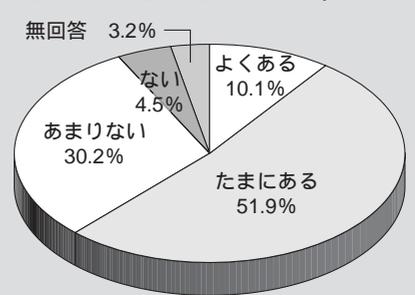
ました。二つめは、多様な保育サービス等の充実で、具体的には、一時保育の充実、保育所の延長保育の充実、低年齢児保育の充実、学童保育室の整備を推進してきました。

狭山市の就学前児童数(0～5歳児)は、8千377人(平成14年5月1日現在)で、このうち保育所や幼稚園に通っている児童数は3千975人(47.45%)です。半数以上の4千402人が家庭で(52.55%)は、家庭などで過ごしていることが分かります(グラフ1)。

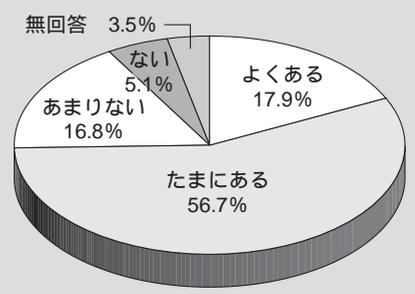
家庭で過ごす子どもの多くは0～3歳児です。昔は祖父母や兄弟と一緒に暮らしていたため、子育てが世代を越えて日常の中で継承されてきました。しかし近年、核家族化が進み、地域とのつながりが薄くなり、子育てを助けてくれる人が近くにいない状況が多く見受けられます。このことから、子育ての負担が特に母親にかかることが多くなり、お母さん達が精神的に負担を感じるようになってきました。自分の子育てに戸惑いや不安を感じることもあっても身近に子育ての悩みを相談できる人が少ないため、なかなか解決できず、不安を持つ親が増えています。

「狭山市母子保健計画」平成14

子どもの育て方への不安(グラフ2)



子育てでストレスを感じること(グラフ3)



平成13年11・12月に保健センターの乳幼児健康診査(4か月児、1歳6か月児、3歳児)、乳幼児健康相談、育児学級で保護者を対象に実施

安心して子育てができるよう応援します

年3月)のアンケート調査結果で、育児に不安を感じる「よくある」たまにある」と答えた親は62%、ストレスを感じる「よくある」たまにある」と答えた親は74.6%に達しています(グラフ2・3)。その主な理由は、「子どもが言うことを聞

かない時」「しつけが思うようにいかない時」が上位を占めています。また、ストレスを感じるの「自分の時間が持てない時」「子どもが言うことを聞かない時」「自分ばかりに負担がかかっている時」などが上位を占めています。

子育ての悩みや不安を母親一人で抱え込まずに、すべての親子が安心して暮らせるよう、社会全体で環境をつくり出していくことが必要です。

市では、これまでも子育て中の親が、ほかの親子や自分の子どもと同年齢の子ども達と一緒に

に過ごすことができるよう、保育所や幼稚園での園庭開放や、保育士が身近な公園などに出かけ、遊びながら気軽に相談などができる「ワイワイ広場」などの交流事業を行ってきました。また、保健センターの乳幼児健康相談をはじめ、各機関でも相談

を